

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102103		
法人名	医療法人聖孝会		
事業所名	グループホームぽぷり		
所在地	熊本市北区池田2-6-56		
自己評価作成日	令和5年4月9日	評価結果市町村受理日	令和5年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和5年5月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日常生活の中で自分で出来ることを見つけて自己決定する場面を作るよう心がけています。できるだけ自立した生活を続け、自分らしさを保つようにスタッフが「出来ないことはお手伝いする」姿勢で接するよう心がけています。・入居者様が体調不良になられた時は、母体である「中村整形外科」で対応します。また緊急を要する時には、主治医の指示のもと対応します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に沿い、年度ごとにホームの目標と目標に向けた具体的取組を掲げ、玄関に掲示して共有を図っている。4年度の目標は、「引き出そう、入居者の生きる力」とし、入居者の意向を確認し自己決定を促すとともに、できることは自分で行い、できないところを支援するケアを心掛けています。母体医院が併設し、日頃から連携が図られており、夜間・緊急時はまず母体医院に連絡し、指示を得て対応しており、本人・家族・職員の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度ごとに事業所の理念を掲げ、その実践に向けて業務を行っている。	法人の理念に沿い、年度ごとにホームの目標と目標に向けた具体的取組を掲げ、玄関に掲示して共有を図っている。	ミーティングなどで、理念・目標の意味するところについて具体的に話し合う機会があると、理解が深まると思われる。また、目標に沿ったケアができていないか、定期的に振り返ることも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民とのコミュニケーションを図るよう努めている。	以前は、琴や三線の演奏などのボランティアの来訪があったり、地域に個別に買い物に出かけたりしていたが、コロナ禍以降は地域との交流はほとんど行われていない。管理者は、近くの団地の人々に声掛けし交流したいと考えており、今後、地域との交流が推進されることが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学・体験を受付中で介護の困った電話相談を受け付けている。(チラシ有)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦の状況において、こちらから出向いて資料の配布・内容の査読をしている。	4年度の運営推進会議は、3月のみ対面で行われ、他は委員に資料を持参して概要を説明している。	対面での会議では、ホームが課題としていることや地域からの協力を得たいことなどについて、テーマを決めて話し合うなど、有意義な会議となる事を期待したい。また、委員として家族や利用者の参加も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所のホームページ・メールを毎日チェックし熊本県市町村共同システムを利用している。	市からの通知はほとんどメールで届き、回答が必要な場合などはメールでやり取りしている。コロナのクラスター発生時は、特に保健所や担当課と密に連携して収束を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することのないケアの実践に努めている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、研修を行なって指針の周知を図っている。不適切な言葉かけが見られた場合は、お互いに注意し合う環境となっている。	身体拘束廃止に関する研修は定期的に行い、継続して身体拘束をしないケアについての意識の浸透を図ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止のための指針」を定め、入居者の人権擁護・虐待防止に取り組む為の研修等を計画している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を必要とする入居者には情報やサービスの提供を行いそれぞれの制度を活用している。又専門家につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点にも答えている。気軽に相談にのれる体制である。今年度10月の介護報酬の改定時も説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開かれた雰囲気作りに努め、利用者・家族と話す時間を設け、気軽に話せる機会を作っている。	家族の面会時や電話で、入居者の近況報告をするとともに意見・要望等を尋ねているが、意見等はほとんど聞かれていない。	定期的に、本人の近況についてのコメントや、ホームでの活動の様子・表情などを写真に撮って家族に送付するなど、家族の安心に繋げる取組も期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営にかかわる職員と綿密に連携を取り、業務が円滑に進むよう工夫を行っている。	日々の業務の中で生じる課題等については、その都度その場にいる職員で話し合い、決定したことは申し送りで情報共有している。	月1回程度は、出来るだけ全職員参加のミーティングを開催し、意見交換を行うことも必要と思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の待遇向上に繋がる加算の取得等により、労働条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通じて、研修を受ける時間や機会を、必要に応じて職員に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・勉強会への参加を促す等、介護業界の状況・情報等を広く取り入れる為の取り組みを行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を取り除き、本人の意向を聞く機会をつくり、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談によく話しを聞くようにし、入居してからはこまめに連絡をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談ですぐには行えない時はその状況に合わせて、ケアマネージャーとも相談をしている。本人・家族の意向をお伺いする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者からこれまでの人生について学び絶妙な話しに励まされる事がある。互いに支えあいながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を報告しながら、情報交換を密に行っている。家族の思いも聞き、一緒に本人を支えるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会は感染症対策に努めながら対応している。	以前は、友人の面会があったり、併設の小規模多機能ホームを利用している知人との交流なども行われていたが、現在は、面会も家族や親族がほとんどで、回数も少なくなっている。なお、馴染みの美容室を利用している利用者が数名おり、関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないの関係を把握し入居者同士の会話や言動に注意している。関係がうまくいくように座席の配置に気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の行き先や本人の様子等を聞き取り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりとの時間をしっかりと取り、本人の思いを汲み取りながら、自立した生活を送ってもらえるよう業務を行っている。	入居者と個別にゆっくり話をしたり、思いを伝えるのが困難な人は、行動や表情から思いを把握するよう努めている。日々の生活の中での気づきは、職員間で共有し、より良いケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方は家族・本人からの情報を聞き取り把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること出来ないことを見極めて、ケアプランに沿って実行出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新、要介護度が変更になった際にはミーティングなどにより話し合う機会を設けている。	入居時は暫定プランを作成し、3ヶ月程度様子を見て職員の意見を聞いてプランを更新している。その後は基本的に半年ごとに担当者と計画作成担当でモニタリングを行い、計画作成担当者がプラン案を作成し、ミーティングで検討してプラン更新を行っている。病気を再発させることなく、できることを維持し、楽しく過ごせるような支援に配慮したプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	処置箋・個人のケース・夜勤日誌に記入した上で申し送りをし情報の共有は図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人・家族の理解があれば中村整形外科と協力して受診・往診も出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見人制度の活用、医療機関との連携により入居者の暮らしがおびやかされることのないよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者なじみのかかりつけ医との関係・母体医療法人との関係を情報提供を行っている。	かかりつけ医は、利用者・家族の希望を聞いている。現在、11名が母体医院をかかりつけ医とし、月2回、内科医の訪問診療を受けている。他の利用者は入居前からのかかりつけ医を継続しており、家族が受診同行している。日頃から母体医院との連携が図られており、夜間・緊急時はまず母体医院に連絡し、指示を得て対応しており、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体に看護師がおり日常の健康管理や医療支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の医者が入院の手配・情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連携し情報を共有して施設として出来ること、出来ないことの説明を行っている。	入居時に「重度化対応に関する指針」を示し、ホームでできること・できないことを説明し、意向確認を行っている。母体医院をかかりつけ医としている人で、家族の希望があり医療的支援が高くない場合は、家族・母体医院と連携して看取りを行ったケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」制定し、対処法・介護者が出来ること、ヒヤリハットがあり活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「非常災害対策マニュアル」を制定し、非常時の対応について周知徹底している。避難訓練等の訓練を行っている。	年2回、日中想定避難訓練・通報訓練を実施している。併設病院・施設等との協力体制は構築されておらず、法人全体で検討することが望まれる。	夜間は周囲の環境や職員体制など、昼間と条件が異なるため、夜間想定訓練も必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「ハラスメント防止対策基本方針」を策定し、職員や利用者の人格の尊重に取り組んでいる。	入居者の意向確認及び自己決定を大切にしたケアを心掛けている。排泄介助時にドアが開いていたり、言葉遣いへの配慮が十分でない場合などは、一人ひとりを尊重した対応を行うよう指導している。	ケアにおける人権尊重やプライバシーの保護について、みんなで話し合う機会を持ち、理解を深めることも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、その人の考えや思いを自分から表現出来るような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常からコミュニケーションを取り、行動を見守りながらできることを確認し、本人の希望が見つけられるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は本人の希望の所へ出向いている。行くことが困難な方には、美容室の出張を利用している。外出する時は服装に気を付け本人の希望の服装をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供を行う外注事業所と連携し、利用者の状態に応じた食事提供を行っている。	食事は三食とも併設病院の厨房で外部業者によって作られ、ホームできざみ・ペースト・とろみなどそれぞれに応じた食事形態にして提供している。季節に応じた行事食の提供も行われている。食後、トレーを拭いたりテーブルを拭く入居者の様子が見られた。	時には簡単なおやつづくりなどを一緒に行い、楽しむ機会をつくることも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食チェックしている。水分は本人の好みに応じて好きな飲み物をとつてもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き・義歯洗浄うがいをし、定期的にポリドントも使用して一人ひとりの状態に合わせた介助・声かけをし、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行っている。排泄のみで考えるのではなく、水分量、睡眠、運動、にも心がけている。	基本的に日中は全員トイレに誘導、夜間も4名のポータブルトイレ使用の方の他はトイレに誘導している。できるところは自分でい、できないところを手伝い、排泄の自立支援を行っている。排泄用品は状態に応じて常に検討し、快適性や費用の削減等について配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は時間を決めて定期的に飲んでもらっている。便秘症の方には医師に相談して薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯の変更を行い、状況に応じて適切にできるよう工夫を行っている。	入浴は週2回実施している。シャワー浴の方が4名いるが、暖房で温めて寒くないよう配慮している。お湯は毎回入れ替えており、個人で入浴剤を入れてお風呂を楽しむ人もいる。風呂上りには水分補給をし、メドマーで足をもみほぐし血流をよくする支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷房や暖房の設定温度や入れたり切ったりする時間に心配りし、安眠できるよう行っている。寝具は季節に応じた物を使用しシーツ包布はいつも清潔にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方に関するファイルがあり、いつでも職員が見られるところにある。また状態を日常の記録に残して医師へ情報提供し治療に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩、外に出る機会を作っている。その方の得意とする事を生かし役割を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の状況において、外出の機会が取れておらず、施設周辺の散歩にとどまっている。	コロナ禍以降の外出は、ホーム周辺の散歩にとどまっている。	コロナ収束後は、季節の花見やドライブ、家族の協力を得ての個別の外出支援なども期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則金銭は家族対応でお願いしている。外出・買い物に行く際はお金を事前に用意してその場で本人に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば家族の方に電話をしている。また施設の方から家族に電話をして会話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境整備等を通じて、快適な住環境構築に取り組んでいる。	リビングにはテレビ・テーブル・椅子・ソファなどが配置され、壁には行事の際の写真や折り紙の作品などが掲示されている。訪問時は、リビングでテレビを見たり歌を歌ったり、計算や間違い探しに取り組んだり、穏やかに過ごす様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや一人用の椅子に座って入居者は活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分のなじみの物や大切にしているものを本人の意向を尊重し持つことができている。	各居室に洗面台があり、天井近くには物を置く長い棚と、ハンガーなどが掛けられる横棒が取り付けられている。入居者はそれぞれタンス・衣装ケース・テレビなどを持ち込み、配置している。また、裁縫道具や布が置いてある部屋、茶道の本や花器などが置いてある部屋など、現役の頃の活躍を思い起こさせるような部屋もあり、それぞれに過ごしやすい部屋づくりがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	間違えやすいところには表示を行い、状態に合わせて声掛けや誘導を行い混乱を防ぐよう工夫している。		